

未来へつながる学びを支援する訪問 報告

国語 羽生市立東中学校

実施日 指導案検討 令和7年8月22日(金)
授業研究会 令和7年9月16日(火)
訪問者 指導主事 阿部 慎一郎

指導案検討会

● 単元名・教材名

状況の中で
挨拶 一原爆の写真に寄せて一
(第3学年)

● 本時の目標

・ 詩の構成や表現の仕方について評価することができる。
《思考力、判断力、表現力等》

《授業者の思い・意図》

- ・ 作者の意図を読むということに挑戦したい。
- ・ 叙述を基に想像するという活動を重視したい。

授業デザイン改善のPOINT

■ 適切な単元目標の設定

「資質・能力の育成」を目指した単元目標を設定する。

■ 単元における言語活動の設定

言語活動を通して、資質・能力を育成する。

■ 学習内容の明確化

学習内容が分かりにくい教科だからこそ、学習内容を明確にする。

■ 指導と評価の一体化

評価する項目と評価する方法を検討する。

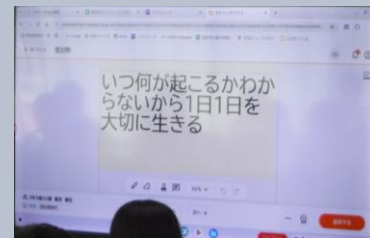
授業研究会

● 生徒の変容や今後の課題

◎ 生徒の考えについて、授業者は「それはどういうこと?」「どこからそう考えたの?」と問うことで生徒は根拠となる叙述を明確にした。

◎ 叙述を基に、教材「挨拶」という詩に込められたメッセージについて、生徒がそれぞれ自分の考えを形成し発表した。

▲ 生徒が取り上げる叙述を、授業者が限定したこと。共通で考える叙述はいくつかあってもよいが、生徒が自分で叙述を選び、そこから考えを形成するという点について検討する。



■ 参会者の声

- ・ 「語感」を意識させるという授業者の視点について、自分も授業の中で難しさを感じていました。同じことに悩んでいる先生がいることを知り、一つの試みとして本研究授業を見ることができたことは勉強になりました。

(授業研究会：中学校教諭)

- ・ 中学校の授業を見ることが少ないので、貴重な機会でした。考えたことを共有する手段としてICTを活用するということは、小学校でも行っていることが多く、「考えの共有」という指導において効果的な活用だと思いました。

(授業研究会：小学校教諭)

■ 授業者の声

- ・ (指導案検討) 指導案を検討することで教材理解が深まり、指導のねらいや評価規順が明確になりました。また、市内の国語科の先生方と協議することで、授業の流れや活動の妥当性を確認できました。
- ・ (授業研究会) 授業づくりには明確な学習課題や発問の意図をもつこと、活動の流れを丁寧に計画することが大切だと学びました。ICTを適切に活用することで、資料の掲示や意見共有が効果的・効率的になり、生徒の理解が深まることも実感しました。
- ・ (今後に向けて) 先生方からの助言によって、自分の授業の強みと改善点を客観的に捉えることができました。今回得た学びを今後の授業改善に繋げていきたいです。